

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2016 年 6 月 28 日

東京大学での所属学部・研究科等:	教育学部	学年(プログラム開始時):	学部3
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	国立台湾大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input type="checkbox"/> 1.研究職 <input type="checkbox"/> 2.専門職(医師・法曹・会計士等) <input type="checkbox"/> 3.公務員 <input type="checkbox"/> 4.非営利団体 <input checked="" type="checkbox"/> 5.民間企業(業界:未定) <input type="checkbox"/> 6.起業 <input type="checkbox"/> 7.その他()			

派遣先大学の概要

国立台湾大学は、台湾における名門校でもあり、アジアにおいても優秀な大学である。台湾の首都台北のなかでも、交通の便の良い場所に存在している。

留学した動機

第二外国語である中国語のより発展的な学習

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況:	2015 年	学部3	年生の	S2	学期まで履修
②留学中の学籍:	留学				
③留学期間等:	2015 年	9 月～		2016 年	6 月
	学部3	年時に出発			
④留学後の授業履修:	2016 年	学部4	年生の	A1	学期から履修開始
⑤就職活動の時期:	2016 年	学部4	年生の	6 月頃に 行う予定	
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位				48 単位
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位				18 単位
	留学後の取得(予定)単位				20 単位
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2013 年	4 月入学		2018 年	3 月卒業/修了
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:	5 年		ヶ月間		
⑨留学時期を決めた理由:					
第二外国語である中国語のより発展的な学習のため、1年間中国語圏に行こうと思ったから。					
留学の準備					
①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)					

基本的に台湾大学のウェブサイトの作りが非常にわかりやすいので、それにのっとれば問題なし。個人的なオススメとしては、国青寮より水源BOTのほうが快適だしほかの留学生とも仲良くなりやすいのいいと思う。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

一学期のみならビザの必要はない。白金にある台湾の事務局のようなところでビザ申請するのだが、申請から発行までに数日しかかからないのは便利。事前にホームページで必要書類をダウンロード印刷し書く必要がある。台湾大学に提出必要な健康診断と似て異なるので注意。ちなみにフォームに書いてある検査項目のうち日本人なら免除されるものもいくつかあるのでしっかり見る必要がある。また、健康診断書が二枚にわたる場合割り印を押さないとビザ申請の際に割り印押してからまた来いと言われる。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

台湾大学提出用とビザ用の健康診断を行ったが、出発近かったのは後悔。東大保健センターのトラベルセンターを利用。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

大学指定のものに加入

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

留学決定と同時に所属する教育学部からメールが届き、それにしたがって用紙を記入した。単位認定は今後申請する。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

HSK6級の取得

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

台湾の場合日本に興味のある人が多いので日本のお土産を持参するとよい

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)
※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。

授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
国際生華語(二)	3	●	国際生華語(一)	3	●
国際生實用華語(二)	1	●	国際生實用華語(一)	1	●
Market and Economic Development of Taiwan (II)	2	●	日文翻譯二上	2	●
教育社會學	2	●	探索臺灣:自然環境與資源	2	●
			国際生華語探索臺灣	2	●

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

<p>特に自分の視野拡張につながった毎日の中国語の授業について書く。中国語の授業が政治経済文化など広範なテーマを即座に討論させるものだったので、中国語のみならず時事問題に精通していなければ授業を100%楽しめない。そこで毎日ニュースサイトを見て、常に自分の意見を持っておく練習をした。そこで毎回少しずつ積極的に発言すると、先生から一目置かれて、さらに意見を求められて、中国語で発言することが楽しくなってきた。</p>
<p>③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など</p>
<p>英語、中国語、教育社会学の授業の準備、英語論文購読、台湾を題材とした教育社会学の学習で毎日4時間は勉強していた。</p>
<p>④学習・研究面でのアドバイス</p>
<p>台湾大学の中国語の授業は朝8時から二時間で、生活リズムが整い、勉強意欲が高まるのでオススメ。</p>
<p>⑤語学面での苦勞・アドバイス等</p>
<p>正直苦勞しかない。基本的に下手だし、台湾人と仲良くなるとすぐバカにされる。それでも友達に教えてとせがむ厚顔無恥ぶりをさらして、一歩ずつ学習するのみ</p>
<p>生活について</p>
<p>①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)</p>
<p>学校が手配した寮で、二人部屋だと4900台湾ドル。結構清潔で住環境として問題ない。</p>
<p>②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)</p>
<p>夏は非常に熱く、冬は体感温度が意外と低く、一年中雨が降る。地下鉄が近く非常に便利だし、外食文化の台湾ではどこにいても食事にはこまらない。デビットカードを出発前に発行し、台湾のコンビニのATMで引き出していた。デビットカードは複数枚用意しておくこと。</p>
<p>③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)</p>
<p>治安も医療も基本的に心配ない。</p>
<p>④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)</p>
<p>・毎月の生活費とその内訳</p>
<p>15000台湾ドル(4900が家賃、800が交通費、2000が娯楽費、基本的に残りが食費)</p>
<p>・留学に要した費用総額とその内訳</p>
<p>上記以外だと、大学指定の保険料がほとんど。</p>
<p>⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)</p>

JASSO
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
友人と週末に別地区へ旅行など
派遣先大学の環境について
①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
留学申し込み時にチューターを付ける項目にイエスと書くと台湾人学生が留学期間中助けてくれる。運よきだが、私のチューターは性格が非常にいい学生でかなり助かった。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
広大なキャンパスにはなんでもそろっている。パソコン室も24時間である。
留学と就職活動について
①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど
②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響
卒業論文の準備として現地学生にキャリア意識についてインタビューを行った。それが自分がいかに働くかという思考にも影響を与えた。
③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)
現地でのインターンの参加
④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください
()1.研究職 ()2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) ()3.公的機関(機関名:) ()4.非営利団体(団体名又は分野:) ()5.民間企業(企業名又は業界:) ()6.起業(分野:) ()7.その他()
留学を振り返って
①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
まず、主要目的であった中国語であるが、集中的に取り組めたのももちろん向上した。しかし私がそれより大切だと思うのは、日本社会から離れ自分について思考したこと、台湾という別の軸を加えたことで日本社会についてより深く考えることができるようになったことである。語学以外にも考える時間や題材は豊富にあって、人と議論したり、新たな知識を得て一人思考したりすることによって、今までとは異なるものの見方・考え方ができるようになったと思う
②留学後の予定

できれば社会問題と関連あるインターンに参加する(農業経営、もしくは労働環境や労働文化方面)。それに限らずとも、自分の興味にしたがって勉強することの快楽を留学から学んだので、その時々的好奇心の赴くままに学び、考えたおしたい。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

留学は行くか否か迷うより、実際行ってみてわかることのほうが圧倒的に多い。だから、とりあえず行ってみるといってもいい。その留学を本当に充実したものにできるかどうかは、全部本人の工夫次第。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特になし

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。